

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2025年度	開講キャンパス		宮崎キャンパス		開設学科	国際教養学科		
科目名称	地域貢献プロジェクト						授業形態		
科目コード	590130	単位数	2単位	配当学年		実務経験担当教員			Active・L ○
担当教員名	呉 海鍾							ICT活用	
授業概要	近年、少子高齢化に伴う過疎問題や限界集落の課題、そして中心市街地の空洞化など、地域社会は多くの課題に直面している。これらの問題は宮崎市においても例外ではない。同時に、大学や短期大学といった高等教育機関は、地域貢献に取り組むことが責務となっている。この授業では、宮崎自治体の協力機関（商工会議所など）からの依頼を受け、宮崎市の中心市街地の活性化に焦点を当てている。具体的には、①学生が中心市街地の課題を明らかにし、②改善策を考案し、③地域の活性化に向けた提案を行うプロセスを通じて、地域に貢献することを目的としている。これには、宮崎市の中心市街地へのフィールドワークやグループワークによる調査研究が含まれる。現地調査には自治体や地域住民と連携し、学期末には、地域貢献プロジェクト研究成果報告会を開催し、提案を行う。この授業を通じて、地域理解を深め、社会人基礎力、ジェネリックスキル、実践力を養うと同時に、地域貢献について共に考える。								
関連する科目	地域データ分析、統計学、社会学、現代社会論								
授業の方法と進め方	授業は、基本的にTBL（Team-Based Learning）およびPBL（Problem-Based Learning）の手法を採用し、学生が調査計画策定、現地調査、グループワーク、報告会などの段階を通じて活動する。具体的には、現地調査では、対象地域のアンケート調査や結果分析、測定機器の操作方法などの調査手法を学んで実施する。								
第1回	オリエンテーション（授業の概要）： ・チームベースラーニング（TBL）や問題解決型学習（PBL）の概要を紹介し、現地調査プロジェクトの内容を概説する。								
第2回	調査計画の策定： ・調査の目的、手法、期間、対象などについて具体的な計画を策定する。 ・調査計画の策定における重要性和作成方法に焦点を当て、学ぶ。 ・策定した調査計画を提出する。								
第3回	文献調査（先行研究、歴史や現状・問題点など）： ・先行研究や実施された調査の結果を文献調査を通じて把握し、現地調査の根拠となる理論的背景を整理する。 ・その結果をレポートにまとめて提出する								
第4回	地域連携講座と調査研究のテーマ設定： ・地域の関係機関と連携しながら、先行研究や実地での問題点や課題を明確化する。 ・調査計画書に基づき、調査研究のテーマ設定し、提出する。								
第5回	【現地調査①】宮崎市中心市街地の現状と実態調査： ・学生が実際に宮崎市中心市街地に足を運び、実態調査を行う。 ・データ収集の方法や現地での行動指針を確認する。								
第6回	グループワーク（調査設計）： ・前回の現地調査で収集した現状と実態調査の情報データを整理し、まとめる。 ・グループで調査設計を行い、アンケート調査票の作成や調査方法の決定を行う。								
第7回	【現地調査②】定量調査と定性調査： ・グループで実施した調査に基づき、定量調査（アンケート、アンケート、現地測定）と定性調査（インタビュー、観察など）を実施する。								
第8回	グループワーク（現地調査データの集計・分析）： ・調査結果のデータを集計し、分析を行う。 ・分析結果から傾向や問題点を抽出し、まとめて提出する。								
第9回	グループワーク（現地調査結果の報告・発表）： ・各グループがまとめた調査結果を基に、報告発表を行う。								
第10回	グループワーク（中間調査報告書の作成）： ・中間調査報告書を作成し、調査結果をまとめ、成果発表会に向けて問題解決策を検討する。 ・その後、まとめた中間調査報告書を提出する。								
第11回	【現地調査③】グループ毎のアンケート調査と測定： ・各グループが補足調査のアンケート調査や計測を実施し、得られた調査結果を詳細に分析する。								
第12回	【現地調査④】グループ毎のアンケート調査と測定： ・各グループが現地での最終補足調査（アンケート調査や計測）を実施する。								

	・得られた調査結果を総合的に分析し、考察を行う。 ・成果発表会に向けた問題解決策の提案を作成する。
第13回	グループワーク（最終調査報告書の作成と提出）： ・最終調査報告書を完成させ、成果発表会に向けて地域への提言やアクションプランなどの問題解決策を示す。
第14回	グループワーク（発表資料の作成と提出）： ・最終調査報告書に基づいて、これまでの調査結果や提言を体系的にまとめ、成果発表会のPPT資料を作成する。 ・発表資料を使って練習を行う。
第15回	地域貢献プロジェクト研究成果報告会と地域連携公開講座： ・学生が作成した最終調査報告書や提案を地域の関係者や一般市民に向けて発表し、成果を公表する。 ・地域の関係者や一般市民が参加し、学生と交流を通じて地域課題への理解を深める。 ・学生の取り組みや提案に対するフィードバックや意見交換が行われる。
授業の達成目標	・宮崎市の中心市街地の現状と課題について理解し、解決策を提案できる能力の向上 ・チームで協力し、調査や分析を通じて問題解決に取り組む能力の獲得 ・地域貢献に対する理解と意欲の醸成 ・社会人基礎力、ジェネリックスキル、実践力の養成を促進する 《到達目標：学士力》において、知識・理解の観点では、宮崎市の中心市街地の現状と課題に関する理解を深め、解決策を提案する能力を高める。また、汎用的技能の側面では、チームで協力し、調査や分析を通じて問題解決に取り組む能力を獲得する。
学修成果との関連	5.地域社会に貢献する意欲を有する。／6.地域社会への貢献に必要な知識・技能を有する。
授業時間外学習【予習】	・テーマに関する文献や資料の読み込み、および調査計画の策定に向けた準備作業が含まれる。 ・毎回の授業のテーマに関連する事項については、書籍、論文、またはインターネットなどを活用して必ず予習を行い、授業に臨むよう心がける。（約1時間程度）
授業時間外学【復習】	復習は毎週必ず1時間程度行い、前回の授業内容を理解できているようにする。さらに、フィールドワークやグループ毎の調査研究に関するデータの分析や取りまとめは、調査後にグループメンバーで分担して行い、次の授業で調査結果などを全員が把握できるようにする。 ・現地調査やグループワークの内容の復習 ・文献資料や調査データの整理と分析
課題に対するフィードバック	課題などのフィードバックに関しては、授業毎に適宜行う。 ・グループワークや報告会でのフィードバック ・担当教員からの個別指導やアドバイス
評価方法・基準	グループワーク調査計画の提出、貢献度等（20%）、②毎回の現地調査結果の報告と発表（40%）、③グループ発表（地域貢献プロジェクト研究成果報告会：40%）で算出する。
テキスト	本授業は、テキストを使用せず、適宜関連資料の配布、スライド、ビデオなどを使用して進めていく。
参考書	適宜授業で紹介する。
備考	・授業の一環として、地域自治体や関連機関との連携を図るため、時間厳守を徹底する。 ・地域連携の実践的なプロジェクトに積極的に取り組み、地域社会に貢献する経験を積み、また就職活動の場としても活用する。